

瀧定名古屋株式会社

事業者紹介

明治初期、瀧定助が営む家業の呉服太物卸商から始まって以来、150年以上の歴史を持つ瀧定名古屋株式会社。時代のニーズに応えながら事業領域や経営環境を整え、現在は服地・アパレルなど各種繊維製品の企画開発から仕入・生産・販売までを一貫して手がける繊維専門商社として、国内外にマーケットを広げています。

「ビジネスを通じて100年後も、人々がファッションを通じて笑顔でいられる未来づくりを」と、リサイクルウールなど環境負荷の軽減に考慮したサステナブル商材も積極的に扱うほか、必要なときに必要なだけの量を供給する、3Dモデリングシステムなどを駆使するなど、サステナブルサービスにも注力しています。

アップサイクルへの取組のきっかけ

「繊維商社としてどうしても出てしまう端切れ（はぎれ）を、処分せず再利用できないか」という思いを持った社内有志の声がきっかけとなり、2020年から端切れを有効活用するためのリサイクルボックスを社内各階に設置、回収をスタート。回収した生地は愛知県内の高校や県内外の大学、福祉施設等へ提供、授業や活動などで利用されています。



社内各階に設置されたリサイクルボックス

また営業課で使用する見本反も処分の対象でしたが、2022年からは椋山女学園大学及び名古屋市身体障害者福祉連合会（名身連）と産学福で連携、学生がデザインした瀧定提供の生地を福祉施設で縫製する仕組みを構築、アップサイクル製品を作成する取り組みを開始しました。作成された製品はイベントやマルシェなどでも販売され、4年間で600メートル分の生地がアップサイクルに利用されました。

このほか、

- ・触育プロジェクトの教材として未就学児教育の現場に端切れなどを提供。
- ・イベントやマルシェなどでの見本反を販売。

・地域の農業廃棄物（果実や野菜の皮など）を使用し染色した生地の開発。

など、生地の廃棄低減や資源の有効活用に関する取り組みを多角的に行っています。



(上 イヤリング 下 付け襟)



学生たちの自由な発想でデザインされたアップサイクル製品。商品化前には、通販サイトなどで消費者が欲しいデザイン・価格の市場調査を行っています。

今後の課題や展望

「ファッションのトレンドをつくり出す繊維商社において、見本反や端切れがなくなることはありません。新しい生地を作る側の者として、消費者に生地がど

のように作られているのかという背景をもっと知ってもらいきっかけづくりも必要だと感じています。産学福連携のようなコラボレーションなど、他業種とのつながりを通じて、より幅広い取り組みもさらに進めたいと思っています」(二宮さん)。



処分反を使用したエコバッグは国内外の展示会のノベルティとして使用。縫製は福祉施設で行っています。

事業者について

瀧定名古屋株式会社

〒460-8667 名古屋市中区錦 2-13-19

TEL 052-201-7331

<https://www.takisada-nagoya.jp>